

 いわみざわ公園バラ園 www.iwamizawa-park.com

ザゼンソウ

ザゼンソウは北海道から本州北中部、中国地方の日本海側に分布する湿地性の多年草です。ミズバショウと同じサトイモ科で一緒に咲いていることもあります。暗紫色の仏炎包（ぶつえんほう）が特徴的で、その形が法衣をかぶった僧侶が座禅を組んでいる姿に似ていることからその名が付けられました。別名ダルマソウ、ベコノシタともいわれています。仏炎苞に包まれた肉穂花序（にくすいかじょ）に、六角状の花が密集していて中心部から先に雌しべが現れ、その後雄しべが出て葯から黄色い花粉がこぼれます。ザゼンソウには、花を咲かせる時に発熱するという特徴があり、まわりの気温がマイナスでも仏炎苞に包まれた花は、20℃前後の温度に保たれているそうです。発熱はまだ寒い季節に虫を誘い寄せるためだと言われています。またザゼンソウは全体に悪臭があり英語ではスカンクキャベツと言うそうですが湿地にはえるのでなかなかすぐそばまで行けず、どれほど臭いのかまだかいだことがありません。（いとう）

自然の恵みに感謝

今月に入るとほぼ雪が融け、草花は雪の下で芽吹き、木々の芽が膨み始め、春の訪れを実感するようになります。さて森や野山の植物から様々な部位を得るため、切り倒したり、根こそぎ取り尽くすといった行為は戒めましょう。たとえば、アイヌの人々は水を吸い上げ始め、柔らかくなったオヒョウニレの樹皮の一部を少しだけ失敬します。出来るだけ再生可能な程度としてきました。木々の果実も一部を採り、あとは他の動物や鳥たちの食料として残すのです。利用する植物の根茎なども同様で再生可能な部分を土に埋め戻し、将来に備えます。自然界を司る神様に感謝することでもあり、再び神様から恩恵を得ることに繋がっているという考えなのでしょう。こうした考え方や方法を実践してきた賢い先人を見習わなければと思います。（かわはら）

今月の便り



雪どけのお庭

4月に入り庭の雪も消えて、庭の中は芽吹きラッシュが始まりワクワク気分も高まっていることでしょう。北国は半年間のガーデニングシーズンです。樹木類、宿根草、薔薇、球根類、クレマチスの状態はいかがでしょうか？例年ですと、ネズミの悪行や凍害等でダメージが見えてきます。薔薇の被害で気落ちするのもこの頃です。冬囲いを外すと、積雪の重量で枝折や凍害等で真っ黒な枝を見つけたり、ネズミが株元の枝を齧り枯れ込みに繋がります。芽吹きも始まるこの時期に薔薇のお手入れは集中します。先に述べたような点を見回り点検して早期に手当を始めましょう。今は携帯で情報収集が簡単になっていますが、室内公園色彩館の緑の相談コーナーで対応していますのでお問い合わせ受付ています。（たかはし）

*「今月の便り」 次ページへつづく⇒

ウグイスマメの秘密

みなさんは「うぐいす豆」ってご存じですか？うぐいす豆は緑色のお豆でスーパーなどでよく売られていますので見たことはあるという方も多いと思います。では、うぐいす豆ってどんな豆かな？実は、その正体はみなさんが良く食べている豆を煮込んだものなんです。もうお判りだと思います、その通り「青えんどう豆」です。うぐいす豆とは、簡単に言うと青えんどう豆を甘く味付けしたものです。早期に収穫したものを「さやえんどう」、完熟前に収穫したものを「グリーンピース」、完熟後に収穫したものを「青えんどう豆」と言います。エンドウ類には2種類あって、①硬莢種（こうきょうしゅ）②軟莢種（なんきょうしゅ）と言う2タイプあります。簡単言いうとサヤが硬くて食べれないのが①で、サヤごと食べられるのが②です。青えんどう豆はサヤが硬いので①なので、サヤの中の実の豆を食べます。②はスナックエンドウなど豆よりサヤを野菜として食べます。大豆で味噌・醤油を作ることは知っていると思いますが、醤油の主原料に、青えんどう豆で植物アレルギー対応の「エンドウ豆醤油」も某会社より出ています。（ながやす）

ウクライナ

春になりました。世界では相変わらずコロナが感染を広げ、ウクライナをロシアが侵攻してしまった 2022 年の春です。流れてくる映像に本当に心が痛みます。武力によって破壊するのは人間の営みだけではなくその土地で生きるあらゆる生き物たちの生活です。さまざまな生き物と共にその恩恵を受けながら生きる豊かさを大事にしたいものです。さて、ウクライナ国旗の水色と黄色は空と小麦の実る黄金の大地だといひます。黄色についてはひまわりとの説も。いずれにしてもソ連時代からの穀倉地帯に相応しい国旗です。また花束でおなじみのカスミソウはウクライナ、コーカサス地方が原産だといひます。気候はケッペンの気候区分では岩見沢と同じですが夏も冬もあちらが少し穏やかなようです。今、私たちは何をすればいいのでしょうか。私たちは日々の生活と地球のどこかで人間が起こしている歪みがどう繋がるのか見て考えなければならないようです。先ずは物言わぬ植物に向ける優しさを生活のどの場面でも発揮できるといいのですが。（きのした）

落花生の豆知識

あなたは、落花生・ピーナッツそれとも南京豆派ですか（・・・？エッ？・・・南京豆（・・・？）と思う方が多いと思いますが、高年齢層の方は南京豆で通用しますが、若い方は何のことやらと言ったところかな。高年齢層は「ピーナッツ」「落花生」「南京豆」すべて使いますが、中年層は「ピーナッツ」や「落花生」を使いますが「南京豆」は使わない傾向があります。さらに、若年層の中でもかなり若い人の中には「ピーナッツ」は知っているけど落花生って何？という方もいるようです！落花生とピーナッツは同一物なのに、落花生は殻付き状態として、ピーナッツは殻を剥いた状態のイメージが強いようですね。実は、ピーナッツは英語で落花生は日本語、ただそれだけの違いで殻付き殻なしは関係ない話なのです。ところで、ピーナッツの故郷は南アメリカで、パン食だった船乗りはピーナッツバターを作りパンに塗って食べながら世界中を周ってピーナッツの栽培を進めていたようです。南京豆の由来は、江戸時代初期に中国を経て渡来したためこの名がある。落花生の由来は、ピーナッツを日本語に訳せなかったため、ピーナッツの花がしぼむと花の付け根から子房柄（シボウヘイ）と言う細い管（根のようなもの）を伸ばし地中に入り、その先に実を付けます。この、ピーナッツの成長過程をそのまま名前にした日本語です。

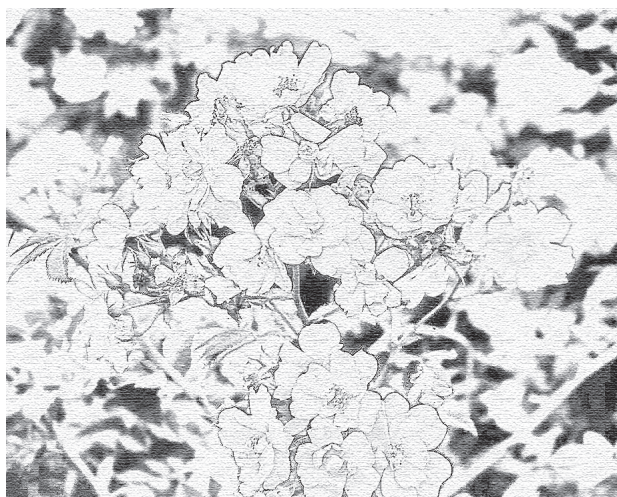
チョット
いっぷく



ひとつき ひとバラ



文：曾根 浩太
(いわみざわ公園バラ園)



第九十回

ランブラーローズ

ポールファーン

Polstjärnan

作出国：フィンランド

作出者：Wasastjerna

作出年：1937年

ハーディネスゾーン：Z3

一季咲き

交配：Rosa beggeriana の交雑種

段々と雪が解けてきて、春の訪れを感じることができるようになってきました。雪の下になっているバラ達が、凍害なく越冬してくれていることを願って、これからの作業準備をする毎日です。

今回ご紹介するのは、そんな願いなど関係なく毎年しっかり枝を保ってくれるつるバラ、ポールファーンです！

樹高は5.5m程度にまで伸び、高めのアーチやトレリスでも十分届く大型のランブラーです。

北極星の別名も持つ通り、花色は白。小輪一重から半八重咲きです。咲き始めは、真ん中のしべの黄色も鮮やかで、とても可愛らしい雰囲気の花が咲きます。花付きもいいので、しっかりと誘引してあげれば一面花で埋め尽くせるといった感じです。

掛け物をしなくても全く凍害が入らない耐寒性を持ち、冬にむき出しの枝をかじっていくウサギ達もなぜかほとんど食べないという、ウサギの嗜好に合わないという利点もあるこの品種。そしてなにより嬉しいことは、トゲがほとんどないということです。

北海道でもよく伸び、強いつるバラでお馴染みのポールズヒマラヤムスクランブラーは、トゲが多すぎて使うのをためら

う方もいるかと思います。ただ、ポールファーンはトゲが少ないので剪定・誘引時のトゲのストレスがありません。耐病性、耐寒性、伸長力にとっても優れた品種で、初心者の方でも失敗はしない品種かと思えます。伸びるので剪定・誘引が大変ではありますが、即効性があるので早く風景を作ることができます。素朴な花で、野趣あふれる雰囲気がお好みなら導入を検討してもいいかと思います。

作出者の Wasastjerna さん。調べてみると物理学者の方がでてきたのですが、この人なのかなーって感じですね。結構整ったお顔立ちでした。

剪定はランブラーなので昨年の開花枝を切って当年枝のみにします。当園では、外で教科書通りのランブラーの剪定方法を実践できる数少ない品種。めちゃめちゃ楽しいです！ボリュームもあるので、練習には最適な品種ですね。

当園でもフィンランドのバラはおそらくこの品種のみかと思います。1937年作出でありメジャーではないフィンランド産。それでも現代までこうして残っているということからこのバラの優秀さが伺えますね。当園が自信をもっておすすめする、北海道つるバラの決定版です！

令和4年度 いわみざわ公園バラ園作業ボランティア『トムテ』のなかま 募集 バラ園と一緒に育みませんか？



皆様にもっと親しんでいただけるバラ園になっていきたいという想いを込めて、作業ボランティアを募集しています。『トムテ』とはボランティアの愛称で、そのお家のお手伝いをしたり守ってくれる、スウェーデンの妖精の名前です。

バラ管理以外に、宿根草や一年草の手入れもあります。

参加には登録が必要です。詳しくはお気軽にお問い合わせください

活動日

- ①木・金曜日（定例活動日）
- ②『ばらゼミ』開催日の午後から
- ③その他自由

お問い合わせ先 いわみざわ公園バラ園（室内公園 色彩館）

〒068-0833 岩見沢市志文町 794 番地 TEL 0126-25-6111

URL : <http://www.iwamizawa-park.com> Eメール : info@iwamizawa-park.com

今月の市民園芸講座のご案内

これは面白い！



●4月17日（日） 13:00~15:00 ハンギング作りの基本

料金：1,500円～（容器代別途・およそ2,000円程度）

定員：18名 講師：高橋 かつえさん フラワーマスター

●4月23日（土） 10:00~12:00

ばらゼミ②剪定について

料金：無料 定員：18名 講師：古舘 杏奈さん ローズグロワー

●4月24日（日） 13:00~15:00 家庭菜園を楽しもう

料金：無料 定員：18名 講師：山黒 良寛さん 拓殖大学北海道短期大学

※最新の開催状況についてはお電話かホームページにてご確認ください。

電話：0126-25-6111 ホームページ：<http://www.iwamizawa-park.com/>

※材料費のかかる講座は、講師の方の準備等の都合上、開催日3～4日前までにお申込みをお願いいたします。

新型コロナウイルス感染防止策として、以下の点についてご了承ください。

× マスクの着用がない方 × 37.0℃以上の熱がある方

上記に該当する方は受講をご遠慮いただいております。

- ・定員制限を設けているため、定員に達してしまいお申込みを受け付けられないことが頻繁にあります。連絡なしの欠席・遅刻はお申込みをしたい方のご迷惑となりますので、ご遠慮ください。
- ・事前申し込み無しに当日に飛び入り参加される方は、定員制限などの関係から受講をお断りさせていただく場合がございます。
- ・密集を避ける為、各講座の定員につきましては予告なく変更する場合がございます。
- ・換気の為、窓・扉を開放いたします。暖かい格好でお越しください。
- ・密接を避けるため、講座中の私語は謹んでいただきますようお願いいたします。